

1) 書画鑑定の難しさ

- ・日本や中国の書画鑑定：趣味性と経済的価値から、一般の関心も高い けれども
むずかしい・難解、目利きの権威 → なぜ難しいのか、学術的に考えてみる
- ・鑑定の難しさは、他分野でも 動植物・地質鉱物、考古・民俗遺品、有価証券
旧石器捏造事件 https://archaeology.jp/activity/paleolithic_hoax/zenchukikyusekkimondai
商品価値が付与され市場が形成される → 贋作の誕生（近代の所産）
制作コストと市場価値の乖離が大きいくほど、作られやすい（市場の原理）
- ・贋作の定義：利潤追求・悪意による詐称（制作者・販売者が意図的に詐称）

2) 日本・中国書画の事情

- ・写しの諸相：東アジアの模写の伝統、模写・模本の流布 画之六法：伝移模写
(cf.『美術フォーラム21』31号、特集：模写と臨書「模写から見える東アジア絵画史」)
- ・作者は贋作を意図せず、流通の過程で詐称（または誤認）される場合も多い
- ・東アジアの表具事情：100年ごとの修理、表具替え → 作品改造や模写の機会
本物・偽物の二元論は通用しない、1点の本物から10点のホンモノに
10%でも本物があれば贋物とは言えない
- ・古くは米芾、董其昌、近代では永仁の壺事件、張大千疑惑等、悪意と腕自慢

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B0%B8%E4%BB%81%E3%81%AE%E5%A3%BA%E4%BA%8B%E4%BB%B6>

3) オリジナルだけが芸術じゃない

- ・オリジナル（唯一無二性）、個性尊重はいつから？ → 近代
古代・中世：権力者（王・宗教）が画家（工房）に依頼 → 依頼者・作者は自明
→ 署名不要、画中の署名は消費者に作者（ブランド）を保証するもの：近代性
- ・絵画の価値は、洋の東西を問わず近代（写真の発明）まで肖似性（写実性）にあった
→ 写真の発明以後、絵画独自の価値の探究が始まる（印象派、世紀末、抽象画等）
→ 肖似性に代わる価値基準としての芸術性が難解 → オリジナリティ・個性尊重へ
- ・写し（模写・模本）の価値：資料的・学術的価値（受容や社会文化研究）、芸術性
- ・倣（仿）：原本を再解釈した「オリジナル」作品!? ピカソ《草上の昼食》は剽窃か？
- ・オリジナル至上主義再考：芸術＝誰の模倣でもない独自作品（欧米近代の芸術観）
→ 誰の模倣でもない作品はありえるのか？ 「本歌取り」の美意識
- ・写し、模倣作、贋作の流通による芸術作品概念の変容 → 複製美術、現代美術
→ 刹那的造形：刻々と変わる作品、消失する作品、パフォーマンス等々
- ・写しは近代の芸術概念の成立と深いかかわり → 芸術再考の端緒に